

治療前



治療後



主訴	口元が出ている
治療内容	抜歯(上顎左右第一小臼歯、下顎左右第一小臼歯)、ホールディングアーチ、マルチブラケット装置(ワイヤー)
患者様の年齢	16歳
患者様の性別	女性
治療期間	2年1ヵ月(25回)
治療費(税別)	検査診断料40,000円+基本矯正料750,000円+動的治療費5,000×25回=125,000円=合計915,000円
治療で得られるメリット	口元突出感の改善、正常被害の獲得
治療する際に起こるリスク・副作用	矯正歯科装置装着後に違和感、不快感、痛みなどが生じることがあります。一般的には数日間～1、2週間程度で慣れます。 歯の動き方には個人差があります。そのため予想された治療期間が延長する可能性があります。 矯正歯科装置の使用状況、顎間ゴムの使用状況、定期的な通院など、矯正歯科治療には患者さんの協力が必要であり、それらが治療結果や治療期間に影響します。 治療中は矯正歯科装置が歯の表面に付いているため食物が溜まりやすく、また歯が磨きにくくなるため、むし歯や歯周病が生じるリスクが高まります。したがってハミガキを適切に行い、お口の中を常に清潔に保ち、さらにかかりつけ歯科医に定期的に受診することが大切です。また、歯が動くことで歯が揺らぐように感じることもあります。 歯を動かすことにより歯根が吸収し、短くなることや歯肉がやせて下がる場合があります。 ごくまれに歯が骨と癒着して歯が動かないことがあります。 矯正歯科装置などにより金属等のアレルギー症状が出る場合があります。 治療中に顎関節の痛み、首が痛む、口が開けにくいなどの顎関節症状が生じることがあります。 治療の経過によっては歯肉が赤く腫れたり歯肉が萎縮する可能性があります。 歯の形の矯正や咬み合わせの調整を行ったりする可能性があります。 矯正歯科装置を脱落する可能性があります。 矯正歯科装置を外す際にエナメル質に微小な亀裂が入る可能性や、かぶせ物(補綴物)の一部が破損する可能性があります。 動的治療が終了し装置が外れた後に、咬合の咬み合わせに合った状態の歯(歯列)やむし歯の治療(補綴物)などをやりなおす必要性が生じる可能性があります。 動的治療が終了し装置が外れた後に保定装置を指示通り使用しないと、歯並びや咬み合わせの「後戻り」が生じる可能性があります。 あごの成長発達により咬み合わせや歯並びが変化する可能性があります。 治療後に知らずのうちに歯並びや咬み合わせに変化が生じる可能性があります。また、加齢や歯周病などにより歯並びや咬み合わせが変化する場合があります。 矯正歯科治療は一度始めると元の状態に戻すことは難しくなります。